

ミナミキイロアザミウマ情報第1号（キュウリ・ナス）

令和6年11月1日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

キュウリで多発！ナスでも注意しましょう！

1 発生状況

(1) 10月下旬に実施した巡回調査の結果、キュウリにおけるミナミキイロアザミウマ（図1）の寄生葉率が1.13%（平年0.09%、前年0.13%）で、過去10年と比較して最も高く、発生ほ場率が37.5%（平年11.25%、前年37.5%）で過去10年と比較して2番目に高い状況でした。

また、本種が媒介するメロン黄化えそウイルス（MYSV）によるキュウリ黄化えそ病（図2）の発病株率は0.25%（平年0.03%、前年0.13%）で、過去10年と比較して最も高い状況でした。

ナスにおける寄生葉率は3.95%（平年2.91%、前年0.32%）で、ここ5年間では最も高い値となっており注意が必要です。

(2) 令和6年10月31日発表の名古屋地方气象台1か月予報では、向こう1か月の気温は高いと予想されています。今後、本種の増加に好適な条件が続くと見込まれるため、現在、発生が少ないほ場でも今後の発生に注意が必要です。



図1 ミナミキイロアザミウマ成虫



図2 ミナミキイロアザミウマによって媒介されるキュウリ黄化えそ病

2 防除対策

- (1) 本種の施設内への侵入を防ぐため、防虫ネットを利用しましょう。白色系を使用する場合は目合い0.4mm以下のネットを、赤色系を使用する場合は目合い0.8mm以下のネットを利用しましょう。防虫ネットにやぶれがある場合は補修しましょう。
- (2) 青色の粘着板などを利用して発生状況をよく観察し、早期発見に努めましょう。
- (3) 積極的に天敵を利用しましょう。
- (4) 本種の発生を認めたら、表を参考にして、密度の低いうちに防除しましょう。
- (5) 本種は、薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統（表のIRACコード参照）の薬剤の連用は避けましょう。

- (6) 天敵や訪花昆虫を導入しているほ場では、それらへの影響に注意して薬剤を選定しましょう。
- (7) キュウリ黄化えそ病の発病株は伝染源となるので、見つけ次第除去しましょう。

表 ミナミキイロアザミウマに対する主な防除薬剤

作物名	適用害虫名	農薬名	使用時期	本剤の使用回数	IRACコード
きゅうり	アザミウマ類	ベネビアOD	収穫前日まで	3回以内	28
		アグリメック	収穫前日まで	2回以内	6
	ミナミキイロアザミウマ	コテツフロアブル	収穫前日まで	3回以内	13
		ベストガード水溶剤	収穫前日まで	3回以内	4A
なす	アザミウマ類	ファインセーブフロアブル	収穫前日まで	3回以内	34
		モベントフロアブル	収穫前日まで	3回以内※	23
		アフーム乳剤	収穫前日まで	2回以内	6
		グレーシア乳剤	収穫前日まで	2回以内	30
	ミナミキイロアザミウマ	コテツフロアブル	収穫前日まで	4回以内	13

※モベントフロアブルは、灌漑での登録もあるため、総使用回数に注意する。

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/mechanism_irac03.pdfを参照する。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。